

<ビリヤードの発祥地>

紀元前 400 年ごろ地面に丸い 2 個の石を棒で撞いて戸外スポーツとして行われ(ギリシャ)室内スポーツとして発達したのはスペイン説・イギリス説とあるが 14~15 世紀頃の 1571 年のフランスのチャールス 9 世の王室芸術家であるド・ビニーが発案といわれたフランス説が有力である。戸外から室内にそしてテーブルも一定の形をしていたが当てるゲームからアーチ状の物を設け穴に落とすと変化していった。ポケットゲームの原型として 18 世紀後半、テーブルも長方形となり 6 個のポケットを設けるようになった。当初は棒で撞いてたが、19 世紀の始めイギリスのジャック・カーが白墨の粉を先に塗ることによりキューミスを防ぎヒネリを与えることができマジックパウダー(チヨークの原型)と名づけられヒネリのことをイングリッシュと呼ばれた。タッフはその 10 年後フランスのマンゴーがキュー先に革を付けマジックパウダーを使用することで今までにないスピンをかける事ができた。

[貴族のスポーツビリヤード]

14世紀頃、ビリヤードはヨーロッパの宮廷で流行しました。

フランスのルイ14世は、医者のおすすめで健康のためによくビリヤードをしたという記録が残っています。フランスのシャルル9世やルイ16世、イギリスのジェームス1世、スコットランドのメアリー・スチュアートなど、熱狂的にビリヤードを楽しんだといわれており、ビリヤードは貴族のスポーツとして人気があったようです。

[アメリカで普及]

現在、最もビリヤードがしているのはアメリカです。そのアメリカには1565年にスペイン人によってはじめてビリヤードが伝えられたといわれています。

そして、1850年代、ポケットビリヤードはアメリカで大流行し、1859年4月にはトロイトで15,000ドルもの賞金がついた大会が開催されました。

アメリカの歴代大統領も、ビリヤードをプレイする人が多く、ジョージ・ワシントン、トーマス・ジェファソン、ジョン・クインジ・アダムスなどがビリヤードを楽しんだということです。

また、歴代大統領の中でも、アブラハム・リンカーンはかなりのビリヤード好きで非常にポケット・ビリヤードに熱中したそうです。

[日本での歴史]

日本にビリヤードが伝わったのは1800年代のことで、江戸時代、長崎の出島にオランダから伝わったとのことです。しかし、それはポケット・ビリヤードではなく、ポケット・ビリヤードは、その後、1900年頃にアメリカから持ち込まれました。ポケット・ビリヤードが普及し始めるのは、その数年後のことで、最初はローテーション・ゲームとして普及し始めました。そして京都が中心地となりました。

現在でも、京都は日本のローテーション・ゲーム発祥の地として、都道府県対抗など各種大会で活躍する選手を多く送り出しています。

以前、ビリヤードは玉突、撞球(撞球)と呼ばれていました